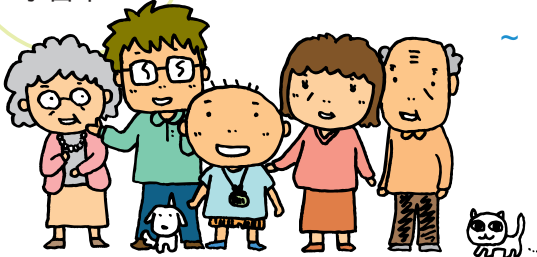


矢口家でも
おかねについて
学習中！



第1回「金融教育公開授業」in 名古屋 現場レポート

～ ケータイを題材に学ぶ お金の賢い使い方 ～

日本銀行情報サービス局が事務局を務めるマネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会は、中立・公正な立場から金融経済情報の提供と金融経済学習の支援を行っています。知るぽるとのぼるとは「入口」や「港」という意味です。HPアドレスは、<http://www.shiruporuto.jp/> です。

考える力を育て、お金の賢い使い方

「ケータイ（携帯電話）の通話料が月々五〇〇〇円だとして、中学・高校の六年間でいくらになると思う？ 三六万円にもなるんやで。こんな大金、ほかに本当に必要な使い道がないか、よく比較して考えてほしいなと思います」。生活経済ジャーナリストで本日の講師であるいちのせかつみ先生の軽妙な大阪弁の語り会場はつつい話に引き込まれ、笑いも絶えない。そんな雰囲気の中、七月十三日（水）午後、第一回「金融教育公開授業」は名古屋市立御田中学校の体育館で開催されました。

今回、総合的な学習の時間を使って行われた公開授業に参加したのは、同中学校の三年生二一〇名のほか、保護者、地元教育関係者、地域の住民の方々など合計約三〇〇名でした。

『金融教育』とはお金儲けのための教育ではありません。一人一人が、よりよく生きるために必要な教育です。皆さんの小遣いは、ご両親が働いて汗を流

して得たお金。その点をしっかり理解し、こういう使い方であった、と考えるお金の使い方を見て欲しい」と、授業の開催に当たり、金融広報中央委員会の湯本宗雄事務局長は挨拶しました。私たち金融広報中央委員会は、平成十七年度、「金融教育元年」を掲げて、学校における金融教育の推進に特に力をつけて取り組んでいます。学校における「金融教育公開授業」の全国開催は、その主な事業のひとつです。

授業ではまず、予め生徒の皆さんに回答してもらった「お金の使い方」に関するアンケート結果の発表が行われました。自分たちが答えた内容だけに、会場は皆、興味津々！「問一、欲しいものはありますか？」では、いまどきの中学生らしく「三位、携帯電話」、「二位、洋服」と続きますが、注目の第一位は意外（？）にも「ない」。いちのせ先生の「夢がないなあ、寂しいなあ」のコメントに思わず（苦笑い）が起こります。「問三、今まで買って後悔したものは？」についても、第一位

は「ない」でしたが、「洋服」「ゲーム」のほか、「百円ショップのまとめ買い」、「修学旅行のお土産」、「福袋」といった回答もありました。

こうした調査結果を踏まえ、いちのせ先生は「最近買ったものについて、値段、買ったときにどれ位欲しかったか（五段階）、満足度（五段階）を書いてみて」とチェックシートを配ります。記入する生徒さんたちの表情は皆、真剣そのもの。「最初の『欲しかった度』と買った後の『満足度』を比較してみても、上昇していたり、横ばいだったらいいな。でも下がってしまったっている人もいますね。つついその時の気持ちで買ってしまっただけ、それが本当に必要かどうか、買ったから満足するかどうか、すぐに買わんと、ちよつと時間を掛けて考えてみて。一週



いちのせ先生と御田中学校の生徒さんたち



保護者の方からの質問

間後もまだ欲しいかどうか。よく考えると、お金の使い方が変わると思います。」

ケータイって欲しいもの？
必要なもの？

次に、アンケートで「欲しいもの第三位」に入った携帯電話を題材に、お金とは何かを考えます。「最近のケータイにはどんな機能が付いている？」との先生の問いかけに、生徒さんからは「お財布機能、インターネット、ゲーム、テレビ、電卓、スケジュール管理、オーディオ（着メロなど）」等、次々出てきます。「いろんな機能があるけど、何に、どう使うかによってケータイの買い方や料金の損得が変わるんです。」

後払い＝借金！

「ケータイの通話料やパケット料金は後払い。手持ちのお小遣いが千円

しかない時も、五千円分でも一万円分でもケータイを使えてしまつ。これは、つまり、お金を借りてるのと同じ。皆さんには、そういう意識を持ってほしい」といちのせ先生。

「今回の授業を通して、賢いお金の使い方、下手なお金の使い方についてどう考えたか、みんなの意見を聞かせて下さい」との問いかけに、指名された生徒さんが、前に出てそれぞれの意見を発表しました。賢い使い方については、「なぜ欲しいのかという自分の感情を整理してから買う」、「買いたいものをよく調べてから買う」、「必要かどうか、よく考えてから買う」といった意見が出されました。

一方、下手なお金の使い方に関しては、「衝動買いはだめ！」、「みんなが持っているからという理由で買わないようにする」といった意見が出されました。

お小遣いで金融教育

授業の後、会場の保護者の方から、「子供にいつからお小遣いをあげたらいいのか。また、

お小遣いについて、子供にどのような話をしたらいいのか？」という質問がありました。いちのせ先生は、「お金の話に興味を持ち始め、日々、どの位あればいいかを考えられるようになったら、お小遣いを渡すようにするのが良いのではないのでしょうか。お金は、使い方次第で不幸にもなります。賢く使える人になれば、幸せになります。」

いちのせ先生は、「ご自分のお子さんが小さいうちは、毎月のお小遣いを基本手当、お手伝い手当、勉強手当、生活態度などの明細表を付けて渡されていたそうです。小学校6年生からはドルで渡し、高校生になってからは年俸制を導入し、携帯電話料金も自分で払うようにされていたそうです。」

金融教育公開授業、
全国リレー開催中！

公開授業を終えて、参加者の方々からは、「子どもたちの身近な話題を取り上げて、お金の価値や使い方について考えるキツカケを与えてもらった」、「学

校、地域、家庭など、子どもを取り巻く全ての環境の中で、お金の問題について、話し合いをしていくことが大切だと感じました」といった感想を頂きました。金融教育の必要性は認識しているけれども、どのように取り組んでよいかわからないという方も多いと思います。今回の授業が、学校で、ご家庭で、そして地域での金融教育に関する取り組みを広げて頂くきっかけになれば幸いに存じます。

金融広報中央委員会（および各都道府県金融広報委員会）は、今年度、一九都道府県で二一の幼稚園、小中学校のご協力を得て、金融教育公開授業を開催する予定です。「興味のある方は、金融広報中央委員会のホームページをご覧ください。」

最後になりましたが、今回、金融教育公開授業開催にご協力いただいた御田中学校の校長先生をはじめとする先生方、生徒さん、いちのせ先生、愛知県教育委員会、名古屋市教育局、そして愛知県金融広報委員会、日本銀行名古屋支店の皆様に厚く御礼申し上げます。